

企業訪問 循環型最前線レポート

(有)尾張商事

建設汚泥処理に本格参入の計画 資源リサイクルセンター リサイクル率85%の

(有)尾張商事

運送業からスタート

(有)尾張商事(稲沢市祖父江町山崎柳69番地)は、運送業から産業廃棄物業に転進したユニークな企業で、小規模ながら循環型社会の一員として地域密着の精神を基本に、ネットワークと機動力を発揮して取り組んでいます。4月には市町村合併で稲沢市になり、新しい節目にあたり、山崎社長にお話を伺いました。



山崎真裕社長

運送業当時に王子製紙や三菱自動車といった取引先の担当者から「産業廃棄物をやってみないか」と声をかけられたのをきっかけに、昭和59年に愛知県、豊橋市、豊田市、岐阜市の産業廃棄物収集運搬許可を取得し産業廃棄物業へ本格的に参入。その後も平成2年に名古屋市、三重県、平成12年に岐阜県の収集運搬許可を取得し、事業を順調に拡大してきました。

その他にも平成12年に愛知県と豊田市の特別管理産業廃棄物収集運搬許可、平成13年には処分業(中間処理)の許可を取得。そして平成14年には祖父江町と中島郡平和町(現在は稲沢市)の一般廃棄物収集運搬(事業系)許可を取得し、地元行政の委託を受けて事業系一般廃棄物の収集運搬を行っています。

同社の特徴として運送業からのスタートのため、一般貨物自動車運送業許可(青ナンバー)について何の抵抗もなく取得し、全車両すべて青ナンバーで、



代表取締役社長/山崎 真裕

■本社/〒495-0002 愛知県稲沢市祖父江町山崎柳69番地

TEL.0587-97-0691 FAX.0587-97-1953

■設立/昭和59年4月

■取得許可/産業廃棄物収集運搬:愛知県・名古屋市・豊橋市・岡崎市・豊田市・岐阜県・岐阜市・三重県・静岡県・京都府
産業廃棄物中間処理(圧縮・減容固化・破碎):愛知県



行政や取引先（排出事業所）へ大きな信頼と安心につながっています。

循環型社会にマッチ

同社は、平成13年産業廃棄物を取り巻く変化に対応して減量化、再資源化に向けて中間処理施設、資源リサイクルセンターを建設しました。中間処理施設では、再資源化にむけ手選別によるできる限りの分別後、分別処理、破碎処理、減容固化、圧縮処理を行い、新たな資源としてリサイクルされます。現在85%のリサイクルを行っています。

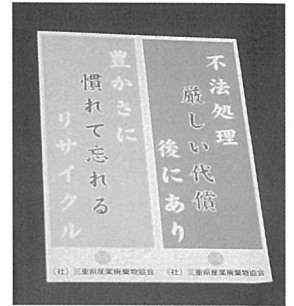
分別処理後、廃プラスチック類は破碎、圧縮処理の後同社と協力企業の知多イー・アンド・エム（株）でRPF固形燃料として製品化されています。破碎処理では、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くずの7品目を細かく破碎します。木くずは協力企業の三河代用燃料（有）、岐阜代用燃料（株）で燃料として利用されています。また、同社では今後、建設汚泥処理事業に力を入れる予定で、新たな敷地確保やプラント建設を検討しているとのことでした。

明確な倫理と戦略

「誠実・和・努力」をスローガンにかかげる同社は、「私利私欲の拒絶」「組織内情報は無色透明に上に伝える」「人材は下から登用、抜擢する」などの社内倫理を明確にしています。



また、「“兆し（きざし）”を見たらすぐに行動せよ」「初志をあらためて振り返り、実現の試みを繰り返す」を戦略として提示し、社内でのコンセンサスを計っています。また社内には「豊かさになれて 忘れるリサイクル」「不法処理厳しい代償 後にあり」の標語を掲げ、常に社員の方の遵守精神、適正処理の大切さを徹底させています。



これらの努力が「機動力があり、まじめでスピーディー」な企業活動をはぐくみ、地域環境の保全と循環型社会形成への一員として社会的使命を果たす原動力となっています。

エコアクション21取得へ

資源リサイクルセンター横の道路拡張に伴い、敷地が一部移転拡張と新たに土地を確保し、全体で約1500坪。現在の3倍の広さになり、造成工事が進んでいます。車両置き場、用地として計画しているとのこと。また、近接したところに積替え保管場所がありますが、災害時には敷地を解放して地元の要請に協力していくとのこと、地元とも信頼関係を深めています。

今後の計画では、ISO14001と同レベルで、国が認定する「エコアクション21」の早期取得を目指し、社内改善、経営管理を行い、社内あげて取り組むとともに、リサイクル事業の強化を図り、できることから積極的に挑戦し、地域に役立つ資源循環企業をめざしています。

